

■ ■ ■

□本誌の口繪はワットマン六ツ切大に候

□本誌發展のため特別讀者を募り候處幸ひに同情を寄せらるゝ諸君多く此分にては遠からず毎號一葉の精巧石版を加へ得べしと樂しみ居候處この程本誌印刷所より物價騰貴のため職工困難を理由として組版印刷代等の値上を請求なし來り候

□印刷組合決議の上とあれば不得止事に御座候が斯くては折角集め得たる特別讀者よりの割増金は此方に填充せられ何等の發展も出來ぬこと、可相成候

□此際定價を引上候事は望ましからずさればとて思ひ立ちたる發展策を中止するものも厭なれば印刷所の方の値上を充分切詰貰ふと同時に猶一層特別讀者の數を殖して此困難を切抜たき希望に御座候

□されば本誌の發展を望み且多少にても餘裕ある諸君は何卒本誌の特別讀者となりて斯道のため其力を致されんとを希望致候

■先頃美術同志會俱樂部有志の催しにかゝる洋風技術家追吊會の際配布したる『洋風

美術家小傳』は、繪畫彫刻建築製版等の各先輩七十餘名の傳記を集め、故人の肖像二十有餘を寫真版として挿入したるものにして、他に此種の書物なく、洋風美術今日の發達を知るには最も適當の珍書なるが、今回殘本百餘部を實費を以て希望者に頒つべし御入用の方は一部送料共全貳拾貳錢（振替貯金なれば登記料共金貳十四錢）を添へ春鳥會へ申込まれたし

近時雜聞

△太平洋洋畫會展覽會は五月十七日と三十日間上野公園竹の臺陳列館にて開會すべく、故淺井忠氏の遺作を陳列し、又吉田博氏はその歐米漫遊中の作品百餘點を出品すべく中川八郎氏は信州野尻湖附近の景を、丸山晚霞氏は小笠原島及信州澁温泉附近、及武州飯能邊の寫生畫を、河合新藏氏は信州北城邊の殘雪を、大橋正堯氏は九州及び韓國の風景を、大下藤次郎氏は東海道海岸及信州の山嶽及湖水の圖を出品すべしといふ△石版製版術の進歩を圖るため組織せられし虹交會にては、今回星野錫氏を會頭に推

し、毎月一回『虹』と題する會報を發行し事務所を神田區佐柄木町十一番地細井種生氏方に置けり

紹介

◎廣島尙古繪葉書 第五輯

鮮明なるコロタイプ六枚一組にして、銀山の景、嚴島神社の釣燈籠、全青磁塔、宮崎氏所藏の瓢、門田撲齊、菅茶山の像、洞文筆鷹の圖等を藏めたり（二十錢、廣島市革屋町、藤谷□○堂發行）

◎山岳 第三年第一號

本號には奥の富士、羽後富士鳥海山、二荒のおちば、青梅街道より竹森山を越して秩父街道に出づる記、白崩山を登り駒ヶ岳を降る、黒部川及び高瀬川旅行記、白馬岳植物採集案内、加賀白山の裏山降り（北陸三山跋涉記）彦山の裏道等を藏め入葉の山岳アートタイプ及び幾多の寫真版を挿み其他山岳に關する雜錄雜報等を滿載せり、たゞ本號に於て小鳥烏水氏の紀行文を缺きしは少なからず吾人を失望せしめたり（一冊三十五錢會費一ヶ年金一圓《年三回發行》牛込

區新小川町二丁目二十番地城方、山岳會事務所發行)

◎奥村五百子言行錄 手塚益雄著

本郷西片町 新婦人社

四六版百十二頁 二十五錢

女傑奥村五百子女史の性行及逸話を殆と漏なく集録したるものにして、其言行は直ちに模範とすべからざる點多けれど、讀て面白く、其事業に熱心なる態度は紙面に躍如として、大に吾人を感奮せしむるものあり

◎世界一周

商業界の臨時増刊にして日本を除き全世界の都會及名所風俗等を多數の寫眞版にて示し、各種の旅行者の談話を滿載せり(一部三十錢、神田表神保町、同文館)

◎新潮八卷四號

近來大發展をなし此種の雜誌中嶄然一頭地を抽けり、記事多方面に涉りて趣味饒かに活氣横溢せるを見る(二十錢、麴町土手三番町新潮社)

◎旭 丸山晚霞筆

三枚一組の石版刷繪はがきにして富士、松島及白馬山頂の旭を藏めたり印刷上の出來

は松島第一にして白馬は一萬尺の山上を想見せしむるに足る(一組十五錢、日本橋區通三丁目、松聲堂)

問に答ふ

■一 寫生に色鉛筆を使つては後の害になるや
二 研究所の夜の教授は何時間なりや
(k o 生) ◎一 害にはなられど色鉛筆は發色不充分なれば水彩畫の稽古には格別益を認めず
二 冬は午後六時より夏は午後七時より三時間
■近眼者は洋畫家として成功し得るや(北海道一讀者) ◎輕症のものは差支なきやうなり
■筆のイザケルのを避け、ノビノビとして活氣あるやう描くには如何にせばよきや(京橋k, T) ◎寫すべきものを充分見て、繪具を筆へタツプリー着け、大膽に畫けばよいので、筆を紙に着けながら屢々寫すべきものを見たり、又は一筆で塗れるところを幾度も繪具を運ぶやうでは伸々した活氣あるものは出來ぬ
■イースト氏の寫生談に、景色を寫生する時空を後に描けとあり、かくすると不都合の場合少なからず、是非空は後にすべきものなりや(京都

の人) ◎イースト先生の所説は重に油繪のスケッチにつき立論せられしやうなり、水彩にては空を先にする方便なる場合多し又調子を合せるため空を幾度も塗るもあり先に塗り中程に塗り最後に塗るのもあり其前後の如きは宜しく寫すべき景色によつて定むべく、理論に拘泥すべからず

讀者の領分

■鉛筆畫法といふやうなものを貴會から發行されたい(k, o,) ■『みづゑ』三十五は内容が確に豊富であつた、講話の多いのも嬉しい特別讀者大明神(神戸汀波生) ■『方寸』第一卷第一號、寫眞例題集第五十一卷第五十二卷を定價にて譲り受たし(小樽區手宮町十五、松田新) ■山本氏の砂目版の話は今度の『みづゑ』に出して下さい(牛込版趣味生) ◎同氏多忙のため續稿が出來ません、今少し御猶豫を諸先生の御説により水彩畫をやつて墨繪をやつてゐるが煙草をよすよりも辛い(k, o 生)